

12月5日（月）小さな群れよ

「小さな群れよ。恐れることはありません。あなたがたの父である神は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです」（ルカ12:32）。

教会は大きい必要がありません。立派である必要もありません。小さな群れにも、神は、喜んで御国を与えると約束されたからです。小さな群れにも、神の祝福は満ちています。小さな群れにも、クリスマスの栄光は満ちています。恐れることない、とおっしゃった主は、人間的な問題がびっしりと詰まった、地上の教会を、そして私の心を住处としてくださるのです。飼葉桶のように汚れた心にも主は宿って、内からひかりをてらしてくださいます。

主よ、わたしに小さな群れを誇る勇氣と、あなたをしたう信仰を与えてください。



12月6日（火）自分を無にして

「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです」（ピリピ2:6-7）

馬小屋で生まれた主の姿こそ、主の姿勢の象徴でした。その姿勢こそ、この世のあり方とはかけ離れていました。偉くなりたい、成功したい、誰しもがふつうに抱くこの思いは、深いところで私たちの罪とつながっていると、もう少し自覚できたら感謝です。栄光の姿を求めて、自分が祝され、ほめられることを望むかわりにキリストの御姿をここに思い描くことが出来る一日でありますように。



12月7日（水）すべての期待をかけて待つ

「私のたましいは、夜回りが夜明けを待つのにまさり、まことに、夜回りが夜明けを待つのにまさって、主を待ち望みます」（詩篇130:6）

まったく光のない闇は、どれほど不安に満ちたものでしょう。〈百鬼夜行〉の言葉のごとく、闇の中は、あらゆる恐れで満ちています。現実の闇は、仮定の闇・想像の闇をも招き、闇は深まるば

かりです。

灯りのないところで、夜番をする者が待ちこがれているのは、暁の光です。これだけを待っています。光がすべての恐怖を終わらせるからです。光として世に来られた主に、すべての期待をかけて待ち望むあなたを、光の主は、〈平安〉で包んでくださいます。

「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます」（ピリピ4:7）。



12月8日（木）今こそ祈ろう

「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」（ルカ2:14）

主イエスさまがお生まれになった晩、羊飼いたちに天使があらわれ、あなたがたのために救い主がお生まれになったと告げられました。その時、賛美にのせて祈りが全地に響きわたりました。

「あなたがたが、わたしの名によって何かを求めるなら、わたしはそれをしましょう」（ヨハネ1

4:14)。主イエスの誕生は、私たちに主の御名によって祈る祈りを与えてくださったのです。今こそ私たちは祈るべき時です。

「地の上に、平和があるように。」



12月9日（金）主は私に目を留めてくださる

「主は、この卑しいはしために目を留めてくださった」（ルカ1:48）

受胎告知を受けたマリヤの賛歌の一節です。主はたくさんいる女性の中からマリヤに目を留められ、マリヤの恵みを注がれました。主の愛は世界の人々を包みます。しかし同時に、主に声をかけられた者、主の存在を知るようになり、教会に連なる者だけが、「主は私に目を留めてくださった」と感謝にあふれて、主の愛を実感することができます。

主の愛を実感することこそ、信仰と感謝の源です。主があなたの一日に目を留めていてくださることを実感することができますように。主が私を

わすれておられないからこそ、私は主を信じ、主を慕います

12月10日（土）優しく導かれ

「主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、ふところに抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く」（イザヤ40:11）。

一年間、私たちはどのような苦労の中をくぐってきたのでしょうか。辛い時期もあったに違いありません。しかし、この一年もまた、「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません」と告白できるに違いないのです。

それは、私たちがどんなに下ばかりを向いて、目先のことにとらわれるような羊でも、羊飼いは変わらずに、私たちを引き寄せ、懷に抱き、優しく導いてくださったからです。



私たちが弱いとき、面倒がかかるようなとき、なおのこと、主はその優しさを示してくださったはずです。そのことをゆっくりと思いめぐらすとき、感謝の思いが心の中に満ちていきます。

2016 年アドベント第2 週

